# 朝焼けへの道

2013年10月10日　No.10

編集・発行　鈴鹿市革新懇事務局　萩森 繁樹
〒513-0012 鈴鹿市石薬師町354　090-4269-0965


## 世界やアジアからTPPを観る

10月2日、東京ではTPPから「食と暮らし・いのち」を守り「国会決議の実現」を求める全国集会が開かれました。ところが、バリ島での会議ではとうとう「聖域」とした農産5品目でも譲歩する様子を見せ始めた政府と自民党。予断を許さない情勢です。

私たちは8月櫻谷先生のお話を聞いて、9月にはJAの山本さんに鈴鹿のお話を聞きました。今度は大きなグローバルな視野で、世界の経済はどう動いているのか、ASEANは何をめざしているのか、アジアの中国・インド・インドネシアなど大きな国はなぜTPPに入らないのかなどを平易に櫻谷先生に解き明かしていただこうと思うのです。

先生は夜だというのに快く引き受けて下さいました。嬉しい限りです。

## TPP学習会に参加して

現在デイケアー施設で調理師と介護で働いています。

そこで、TPPにおける食の「安全・安心」について考えてみたいと思い、JAの方のお話を伺い、新しい情報を得ることとともに問題点に気づかされました。私たちの意識改革が必要なことと、政府の農業政策について怒りを感じました。

高齢者の食事づくりをしていますが、「中国製品」は絶対に使いません。添加物や防腐剤を使用したものも使用しません。だから単価も高いですが健康を考えるとこの原則は守っています。

そこで野菜などは地産地消を使用し利用者さんからの提供にも感謝しています。きゅうりの曲がったもの、形の悪いものを使っても味と食材の安心は守ることができます。出来合いのものや安いものにとらわれないように努力しています。このことはTPPはだめではないかという一つの証明になると思います。冷凍ものは使用しません。ここには産地も書かなくてもという加工の偽りがあります。現在漬物はほとんど中国製です。

食品の表示を見ていただくと分かると思いますが産地の偽装や加工の偽装です。漬物はやはり自家製が一番安心です。また子供たちはその味に慣らされているので、本来の味を食べさせることが大事と思いました。TPPに中国が参加していないということや、誰の利益になるのかと考えることをこれからじっくりと考えていかなければと思います。

また日本の農業人口の高齢化の問題、フランスでは若年層に奨励金を与え国の基本となる農業を守っています。それで食糧自給率は120%を維持しているのです。世界の中でも自給率40%を切るような国の発展はないと思います。政府の農業政策を批判し、国民が安心して住める日本にしていかなければと思いました。自分にもできることを行っていこうと思いました。

（中嶋千絵）

9月20日ＴＰＰ緊急学習会で、ＪＡ鈴鹿 山本克行さんのお話を聞く

## ＴＰＰ学習会Part III

**世界とアジアは今どうなっているか**

**櫻谷先生に再びお越しいただくタベ**

日時・10月22日(火)19時～

場所・白子公民館（コミセンと間違わないで）

お話・櫻谷勝美さん（三重大学名誉教授）

# ナマ落合に逢いたい…！

## 一〇〇〇名規模の落合恵子講演会を来年の夏、鈴鹿市で

落合恵子さんを招いて鈴鹿で講演会をやろう、との呼びかけに応えて、第1回実行委員会が行なわれ、13名（女性6、男性7）が参加しました。

自己紹介の中では、「落合恵子さんへの熱い思い」が出し合われました。

Uさんは昨年東京の脱原発集会の会場で落合さんといっしょに撮った写真を大事に持ち歩いています。今年7月の尾張旭市で行なわれた9条の会落合講演会にも1人で参加したという熱心なファンです。

Nさんは「週刊金曜日」のコラム欄で落合さんの文章に触れ、落合さんが大好きに。「ナマ落合が見たい」との思いを募らせています。

Mさんは10代の頃からの落合さんにのめり込んでいます。当時ラジオの文化放送でいつも落合さんの番組を聴いていました。「スプーン一杯のしあわせ」を愛読しています。

Tさんもラジオで落合さんをよく聴きました。やさしい言葉で物事の本質を語る落合さんに魅力を感じています。

中には「落合恵子なんて全く知らない」という人もいましたが、熱心なファンが多いことがわかりました。

さて、その落合さんを鈴鹿に招くという計画ですが、まだ緒についたばかりです。

話し合いの中で、合唱など文化行事もしたらどうだろう、という意見が出ました。「それいいかも」と話がすすみ、それならタイトルは「フクシマを忘れない・歌と講演のつどい～いのち・いきる・いま～」にしては、などと、話はどんどん発展しました。

約2時間、女性たちのはなやいだ笑い声が響く楽しい実行委員会でした。

（吉田一男）

# 秋風の賦

名実共に過酷な夏もようやく終止符を打とうとしている。

日中はまだ半袖が必要だが、心なしか一寸した隙間風は、季節の更新を告げている。

それにしても仲秋の名月の見事だったこと。夜半のベランダで私は思わず秋波を送った。ご近所の老女が庭先の薄を手折ってくれた穂群は、しなやかに見返り美人よろしく月光に揺らす。

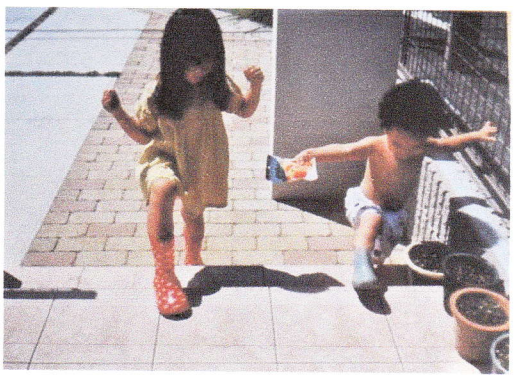
丹波の月はさぞかしーと思っていた矢先、「孫たちもしっかり見ましたよ」との便り。東日本の子どもたちは、月見どころの騒ぎではない、人間の悪業の下で月光も平等でないことを嘆く。中国でもM2・5で星月は見れない子どもに想いを馳せる。

〈萩、尾花、葛、撫子、藤袴、桔梗、女郎花〉ー秋の七草を愛で、摘み山野をかける子どもたちの姿は前世紀で終わった。

童画の世界を再び戻す力こそ、今の大人たちが真剣に考え行動しなければならない命題である。

怒りを忘れた集団では秋風よりはかないのではなかろうか。

（河村紀子）



# 初めて富士山頂に立つ

8月19日に初めて富士山の頂上に立ちました。3千メートル以上の山は高山病にかかった経験があるため、4本の酸素ボンベと0.2リットル入り飲料水を4本持って登りました。

年金者組合山歩会のIさん84歳と共にゆっくり、ゆっくり、30分歩いたら10分の休憩を取ることを守り、七合目から8時間かけて登りました。

私は日頃から体質改善のため、朝のウォーキングを一時間と低い山を登るなど、酸素を体内に取り入れる努力をしています。その効果があったと思います。その後、木曽御嶽山に登りましたが何事もなかったので自信がつきました。

10月末には鹿児島の韓国岳、開聞岳に登ります。

そこで一つ腹立たしい経験を聞いてください。

富士山は富士宮コースから登りました。18日の夕方の4時半頃から5時半頃まで自衛隊の実弾訓練が雲の下から撃ち続けられ、その数とすごい轟音、そして銃口が赤く見えたりすると、自分たちが狙われているようで怒りを感じました。

外国人の登山客はどのように思ってみえるのでしょう。世界遺産の富士山には自衛隊の演習場は考えものです。

（足立房枝）